

実際の変化として子どもの心的外傷後成長を測る —再検査信頼性と基準関連妥当性の検討—

飯村周平 (中央大学大学院)

キーワード: 心的外傷後成長, PTG

問題と目的

心的外傷後成長 (posttraumatic growth: PTG) は、トラウマあるいはストレスフルな経験との心理的な奮闘により生じるポジティブな変化を指す (Tedeschi & Calhoun, 1996)。その変化には、他者との関係の改善、新たな可能性の発見、人間としての強さの獲得、精神性の成長、人生に対する感謝に関する5つの領域が含まれる。これまでPTGは、レトロスペクティブな横断的調査に大きく依存した方法論に基づいて研究されてきた (Jayawickreme & Blackie, 2014)。そのために自己報告された成長が本当の変化を表しているのか、PTGの構成概念妥当性に疑問を抱く研究者も多い。Frazier et al. (2009)はこの疑問を解決するため、ストレス経験前後でPTG領域の現状の機能レベルを測定し、その差得点を実際のPTGと定義した。その際に作成されたのが、現状測定版のPTG Inventory (PTGI) である。Frazier et al. は、この尺度を用いて実際のPTGを測定し、従来のレトロスペクティブな方法で測定されたPTGとの関連を検討した。

本研究では、Iimura & Taku (2016) によって作成された日本人の子どもを対象とする現状測定版PTGI (Table 1) の再検査信頼性と基準関連妥当性を報告する。

方 法

手続き 2016年3月に第1調査 (T1)、2016年5月に第2調査 (T2) を実施した。2つの調査間で、対象者は青年期のストレスフルなライフイベントとして高校移行を経験した。インターネット調査を用いて、参加者は日本全国から募集された。

対象者 T1は310名 (男子155名、女子155名、14—15歳) の中学3年生であり、そのうち262名 (男子130名、女子132名、15—16歳) がT2に参加した。

測定した変数 T1では、PTGの現状の機能レベル (Iimura & Taku, 2016)、レジリエンス (徳吉・森谷, 2014)、Big Five パーソナリティ特性 (小塩他, 2012) を測定した。T2では、前述したT1に含まれる変数、PTG (Taku et al., 2012)、中核信念の揺らぎ (Taku et al., 2015)、出来事中心性 (Berntsen & Rubin, 2006)、侵入的反すう・意図的反すう (Taku et al., 2015)、知覚されたサポート (岩瀬・池田, 2008) を測定した。

分析方法 現状測定版 PTGI の再検査信頼性を検

討するため、T1とT2における得点の相関係数を算出した。基準関連妥当性を検討するため、現状測定版PTGIのT1とT2の潜在差得点 (McAdre & Nesselrode, 1994; i.e., 得点が正であればプラスの変化を示す) を算出し、他の変数との偏相関係数 (現状測定版PTGIのT1潜在得点を統制) を計算した。

結果と考察

再検査信頼性 T1とT2における各合計得点間および各下位尺度得点間の相関は $r = .35 - .47$ ($ps < .001$) を示した。結果としてストレスイベント前後で、高すぎない時間的安定性が確認された。
基準関連妥当性 尺度全体の差得点は、T1の変数と大きな相関はなく、T2のレジリエンス ($r = .14$)、勤勉性 ($r = .19$)、開放性 ($r = .15$)、中核信念の揺らぎ ($r = .35$)、出来事中心性 ($r = .24$)、侵入的反すう ($r = .17$)、意図的反すう ($r = .19$)、知覚されたサポート ($r = .18$) と正の相関を示した ($ps < .01$)。これらの変数は、PTGの生起メカニズムを説明する理論モデルに含まれる (Calhoun & Tedeschi, 2006) ため、現状測定版PTGIで測定した変化は、PTGを反映している可能性が高いと考えられる。

Table 1

現状測定版PTGI (Iimura & Taku, 2016) の項目

1. 私 (ぼく) は、人間がどれだけすばらしいか、助けてくれたりするかどうかということを分かっていきます #他者との関係
2. 私 (ぼく) は、たいへんなことを、上手に解決 (かいけつ) できます #人間としての強さ
3. 私 (ぼく) は、何が自分にとって大事かを分かっていきます #人生に対する感謝
4. 私 (ぼく) は、人間を超えた力 (神様や仏様、祖先様など) が、この世でどんなふうにも働いているか分かっていきます #精神性的変容
5. 私 (ぼく) は、友達や家族などの他の人たちを身近に思っています #他者との関係
6. 私 (ぼく) は、一日一日を大切にできています (毎日を楽しんでいます) #人生に対する感謝
7. 私 (ぼく) には、前にはできなかったことを自分でできるきっかけがあります #新たな可能性
8. 私 (ぼく) は、人間を超えたもの (神様や仏様、祖先様など) を信じています #精神性的変容
9. 私 (ぼく) は、いろいろなことに取り組むことができます #人間としての強さ
10. 私 (ぼく) は、自分が大きくなった時に、いろいろなことがどんなふうになっていてほしいか考えています #新たな可能性

Note. 4件法 (1 = まったくない, 2 = ほんのすこし, 3 = まあまあ, 4 = かなりたくさん) #対応するPTG領域 (5因子)